深谷市新庁舎建設基本設計策定に係る
市民ワークショップ

報告書

平成 28 年１１月

はじめに

深谷市新庁舎建設基本設計市民ワークショップは、平成２８年８月27日、９月17日、10月８日の３日間にわたり、18歳以上の市内在住・在勤・在学の15名の市民の方々を対象に実施いたしました。

ワークショップでは参加者を３つのグループに分け、「使い勝手がよく、市民にとって親しみやすい庁舎とは」をテーマに話し合いを行い、話し合った内容を全体で共有することを毎回繰り返して行いました。話し合いを通して、市庁舎がどのような存在になって欲しいのか、自分たちが市庁舎という場所に求めているものは一体なんなのか、といったことを掘り下げていき、最終回では、市庁舎という場所に対する自分たちの「願い」や「思い」を言葉や空間のイメージで表現していただきました。

建物に対する表層的な機能や設備に対する要望から、なぜそれが必要なのか、それを必要とする背景について議論を深め、そこで得た気づきや課題を空間のデザインとして具体的に反映する、という一連の活動を経て、ワークショップのテーマを自分たちの生活や市民活動に引き寄せて考えることができたのではないかと思います。そして、テーマに真に迫る中で参加者の方々から出てきた意見やアイデアは、今後の新庁舎建設基本設計を考えるうえで、非常に大きな役割を担うと確信しています。

平成28年11月

深谷市新庁舎建設基本設計市民ワークショップ
ファシリテーター
わたなべ　なおこ

【　目　次　】

１　　ワークショップの概要
（１）ワークショップの目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ．１
（２）ワークショップのテーマ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ．１
（３）ワークショップの構成・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ．１
（４）ワークショップの人選・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ．２

２　　活動報告
（１）第１回・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ．３
（２）第２回・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ．６
（３）第３回・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ．９

３　　総括
（１）深谷市新庁舎建設における市民ワークショップで得られた成果
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ．１２
（２）場所ごとに提案された具体的な活動と空間イメージ（必要な要素）
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ．１４
（３）結びに　「市民×行政＝新庁舎」　・・・・・・・・・・・・・・Ｐ．２３

1　ワークショップの概要

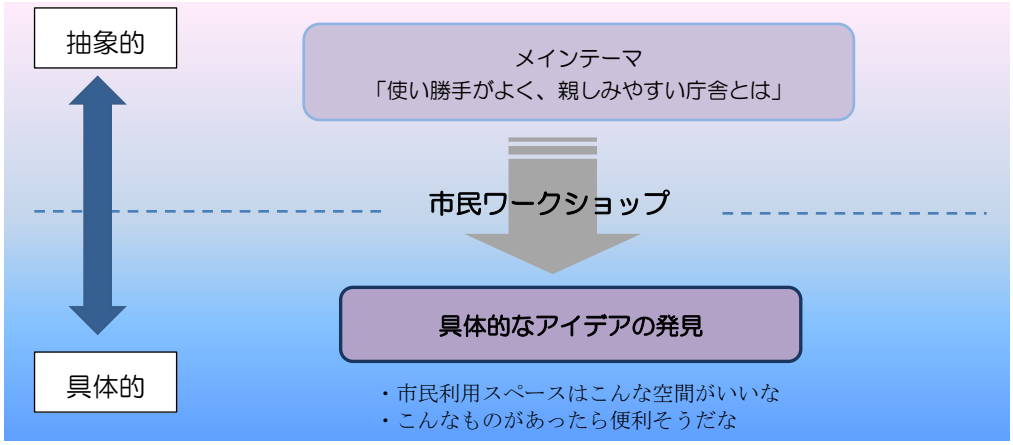
（1）ワークショップの目的

新庁舎建設基本設計の策定にあたり、市民の方々の意見を広く聞く機会としてワークショップを開催し、テーマに沿った内容で、基本設計に生かせる具体的なアイデアを発見することを目的とする。

（2）ワークショップのテーマ

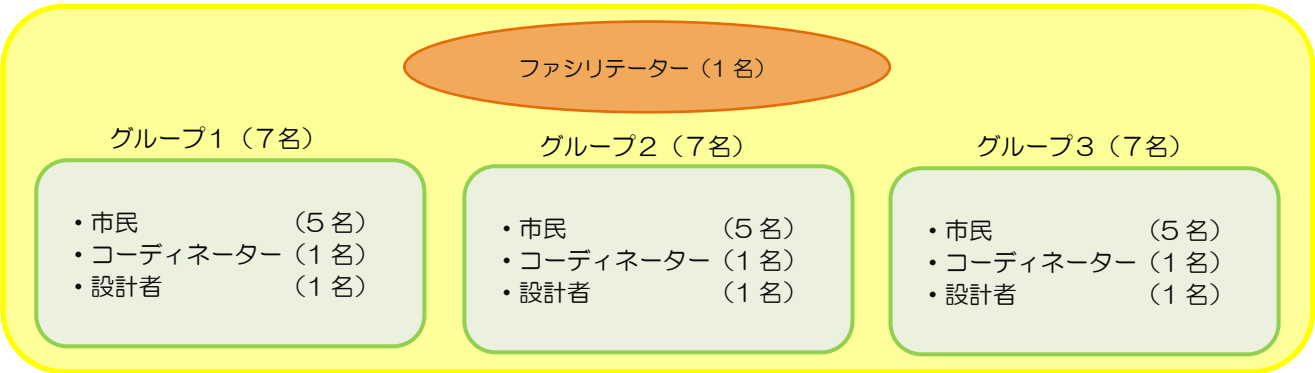
平成 27 年度に策定した、「深谷市新庁舎建設基本計画」に定める、新庁舎整備のための５つの基本理念を実現し、深谷らしい新庁舎を目指すため、
「使い勝手がよく、市民が親しみやすい庁舎とは」をメインテーマとする。

●抽象的なメインテーマについて、参加者が主体的に意見交換を行う中で、市民利用スペース等のフロアデザイン、あると便利な機能などの具体的なアイデアの発見につなげる。



（3）ワークショップの構成

ワークショップは、全体を統括するファシリテーター１名と３つのグループから構成し、各グループは市民５名とコーディネーター及び設計者から各１名の７名とした。



※ファシリテーター…ワークショップそのものには参加せず、あくまで中立的な立場で各ワークショップの意見の総括等の活動支援を行う者。
※コーディネーター…ワークショップグループ内での司会進行を行い、意見を出しやすくするための話し合いの推進者。

（４）ワークショップの人選

参加者については、若者や主婦層、高齢者まで、幅広い世代から募集し、複数グループを作り、グループ間の意見交換を行うことで、より新しい発想につなげていく。

・市民参加者
市民参加者については、各世代、性別、職業など幅広く求める必要があるため、様々なカテゴリーの団体や、市他部門での付属機関経験者等からの推薦者の他に公募により参加者を募った。

・ファシリテーター、コーディネーター、設計者の参加者
ワークショップにおいて、活発な意見交換を促すため、適切な進行を行う必要がある。また、庁舎建設という専門性も必要となることから、基本・実施設計業者から参加者を募った。

●参加者名簿（敬称略）

市民参加者	ファシリテーター コーディネーター	設計者
浅見　幹男	わたなべ　なおこ	榎本　裕亮
石坂　龍三郎	河野　悟	小林　聡
太田　良一	榊原　毅	菅　葉子
岡　仁	村田　牧子	
坂井　貴美子	森内　美由紀	
嶋村　秀子		
嶋村　靖子		
髙橋　良尚		
前野　七海		
森田　美紀子		
柳原　直美		
山崎　典子		
山谷　祐子		
吉岡　和彦		
吉田　允		

２　　活動報告

（１）　第１回

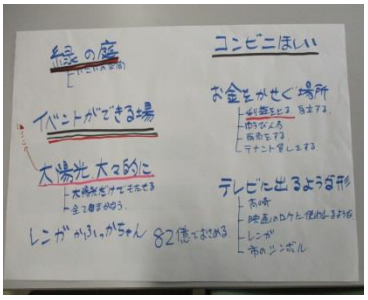
日　時　：　平成 28 年８月 27 日（土）　午前１０時～正午
場　所　：　深谷市役所本庁舎３階大会議室
概　要　：　自己紹介、庁内ウォーキングツアー、グループディスカッション(テーマ：「ツアーで感じたこと、気づいたこと」「もっと市役所がこうだったらいいのにな」「市役所でこんなことしてみたい」）を行った。
考　察　：　新庁舎建設にあたり、テーマに沿った議論を行ったことで、市民が抱く市役所への思いや、市庁舎へ求めるものが明確となった。また、庁内ウォーキングツアーを行ったことで、利用者側と職員側両方の視点に立った議論を行うことができ、今まで気がつかなかった発見があった。

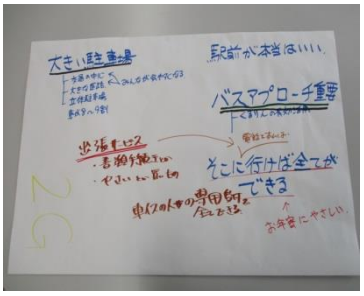
＜庁内ウォーキングツアー＞
　市役所の中を見て回り、気づいたことを発表する。利用者の立場と、職員の立場の両面から見ることで、改めて庁舎について考えるきっかけとなった。

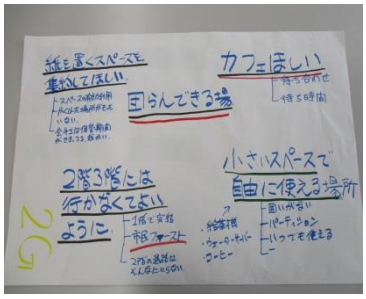
＜グループディスカッション＞

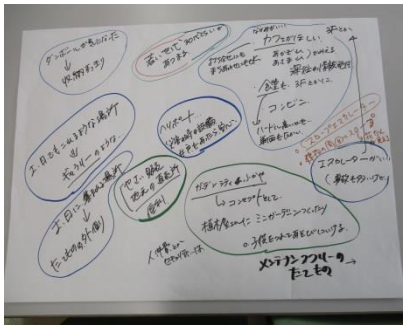
『市役所での〇〇な思い出』例えば、助かったこと、残念なこと、うれしかったこと、緊張したことなど…について話し合った。

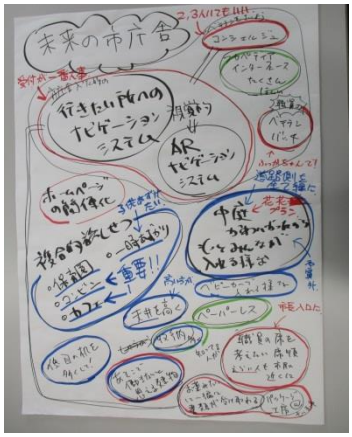
庁内ウォーキングツアーで感じたこと、気づいたことについて意見を出し、『もっと市役所がこうだったらいいのにな、こんなことしてみたいな』について話し合った。

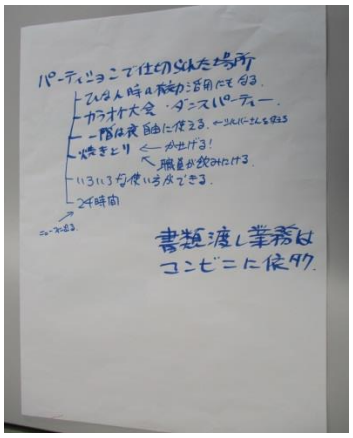












＜意見の書き出し＞

出た意見を模造紙にまとめ、「空間→青または黒」「人→赤」「活動→緑」に分類して整理した。

- 空間…カフェやコンビニ、大きい駐車場、収納を多くする、緑の庭や中庭　など
- 人……団らんできる場、若い世代が集まる場、受付や案内の充実　など
- 活動…イベントができる場所、野菜等の直売所、ペーパーレス　など

＜まとめ＞

積極的なディスカッションが行われ、様々な意見が出た。

空間に関することは、「便利さ」や、ガーデンスペースなどの「憩い」を求める意見があった。

人に関することでは、「利用しやすさ」であったり、「人が集まる場所」を求める意見があった。

活動については、イベントなど、「地域の活性化」につながる意見があった。

特徴的だったのは、カフェやコンビニがあったらいいという意見が多く見られた点であり、特にコンビニは全てのグループにおいて共通して必要と考えられていた。

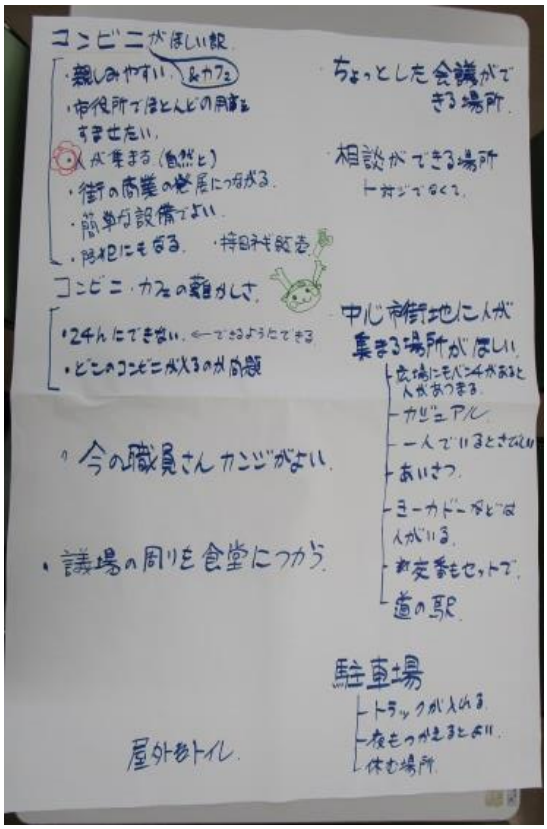
（２）　第２回

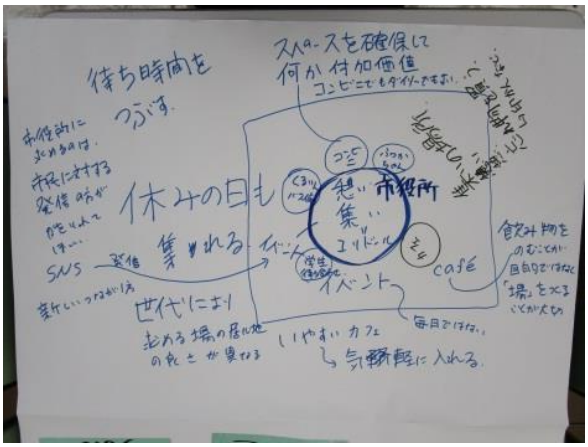
日　時　：　平成２８年９月１７日（土）　午前１０時～正午
場　所　：　深谷市役所本庁舎３階大会議室
概　要　：　第１回ワークショップ活動の復習、設計者からのプロポーザル案の説明、グループディスカッション（テーマ：「なぜ市庁舎にコンビニが必要なのか」）を行った。
考　察　：　第１回ワークショップで得た意見の中で３つのグループに共通する「コンビニが必要」に焦点を当てて議論を深めた。「なぜ必要なのか。本当にコンビニが必要なのか」という一歩掘り下げた議論をすることで、市民が本当に庁舎に求めているものが何か明らかにできた。
　また、設計者からプロポーザル案（庁舎の設計・デザインの考え方、空調方式など技術的な考え方、まちづくりの考え方）の説明を行ったことで、より具体的なイメージを持って議論することができた。

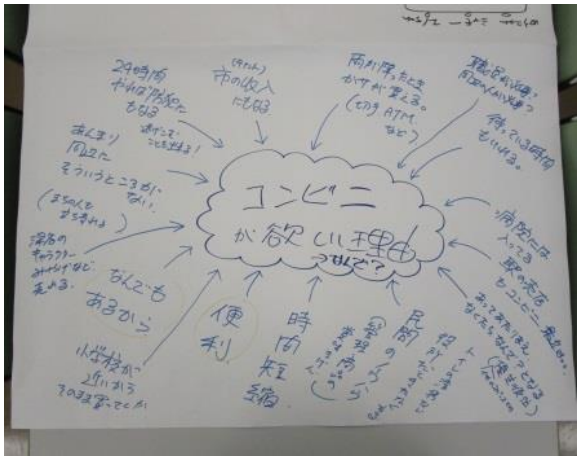
＜設計者からのプロポーザル案の説明＞
　プロポーザル案について、設計者として考えていることを話したあと、質疑応答を行った。
　庁舎だけでなく、『まちづくり』という大きな視点から市役所に必要な機能は何かなど、問題提起も行われた。

＜グループディスカッション＞

第 1 回目のワークショップで、3 つのグループに共通していた「コンビニやカフェが必要」という意見に焦点を当て、なぜそう考えたのか一歩掘り下げて話し合った。







＜意見の書き出し＞

出た意見を模造紙に書き出し、話し合った内容がリンクするものや共通点を探すことで、市役所に望んでいるものは何かを探す手がかりとした。

＜グループ発表＞

グループごとにコンビニやカフェが欲しい理由や、話し合いの中で発見したアイデアを発表した。

コンビニやカフェが欲しいと考えた理由としては、「便利」「気軽に入れる」「自然と人が集まる」「居やすい」「待ち時間をつぶせる」などの意見があった。

また、その他の意見として「中心市街地に人が集まるような場所」「市民に対してもっと情報発信してほしい」などの意見もあった。

＜まとめ＞

『コンビニ』が欲しいと考えた背景には、『時間があったら行ってみようかなと思える場』『人と交流できる場』『干渉され過ぎず居心地の良い場』を求めているという気づきがあった。

上記条件を満たす、具体的なものとして、『コンビニ』という意見が出たが、これは必ずしも庁舎に『コンビニ』が必要ということではなく、本質的には上記空間を満たすものがあれば良いことがわかった。

（３）　第３回

日　時　：　平成２８年１０月８日（土）　午前１０時～正午

場　所　：　深谷市役所本庁舎３階大会議室

概　要　：　第２回ワークショップ活動の復習、設計者から多目的ホールや（仮称）深谷コリドー（花の回廊）、市民広場について説明、グループディスカッション、グループワーク（テーマ：「多目的ホール」「市民広場」「（仮称）深谷コリドー（花の回廊）」での活動とそのデザイン）を行った。実際にどんなレイアウトにするか、イラストや平面図を作成した。

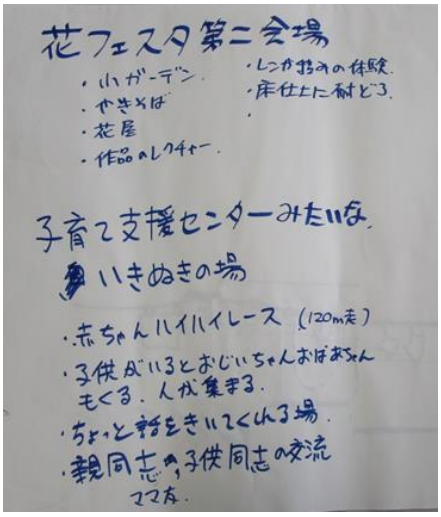
考　察　：　第３回ワークショップでは具体的な新庁舎の場所（空間）を取り上げ、どうしたら第２回で発見したような親しみやすい場所になるのか、そのためにはどのような活動をして、どのようなデザインが良いのかを議論することで、数々のアイデアや意見を視覚化しながら、活動や空間のイメージを深めることが出来た。

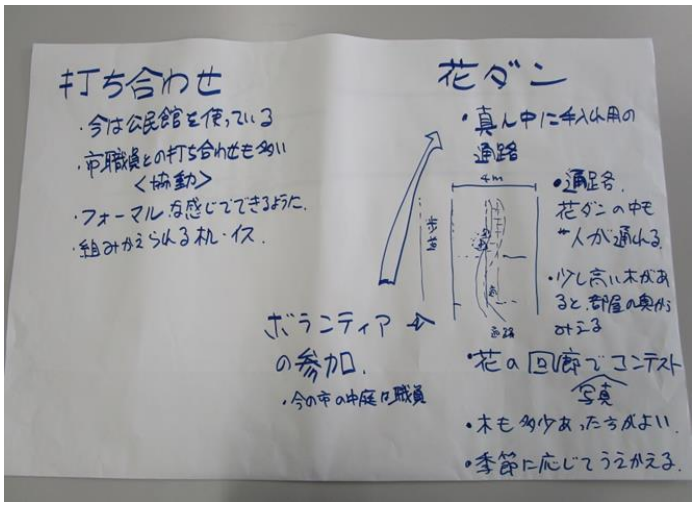
＜設計者から多目的ホール・（仮称）深谷コリドー（花の回廊）・市民広場についての説明＞

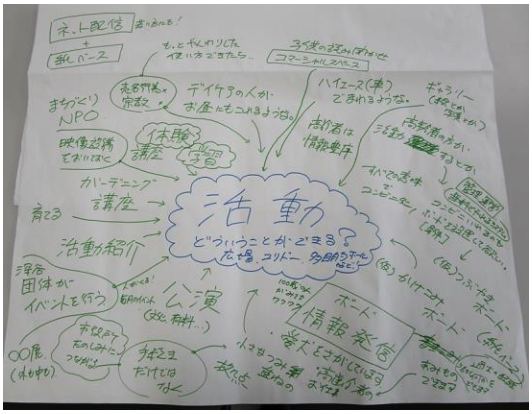
設計者から、多目的ホール・（仮称）深谷コリドー（花の回廊）・市民広場など、主に市民活動の場となる空間について、設計趣旨などを含め説明を行った。

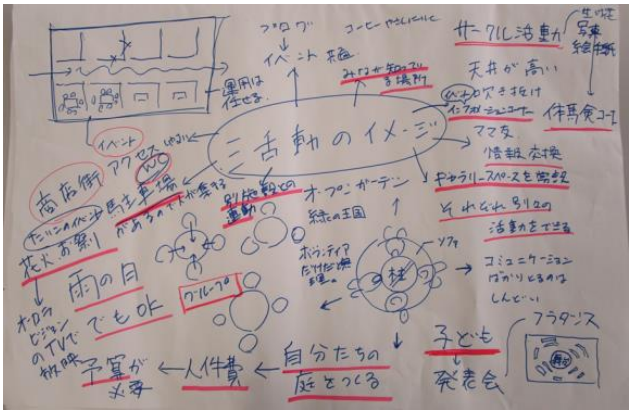
＜グループディスカッション＞

設計者からの話を受け、テーマに挙げた場所においてどのような活動をすれば市民にとって「時間があれば行ってみようと思える場」「人と交流できる場」「干渉され過ぎず居心地の良い場」となるのかについて話し合った。









＜意見の書き出し・グループワーク（デザインの提案）＞

書き出した意見をもとに、その活動を行うためには、どのようなレイアウトが良いのか、イラストや平面図を作成した。

＜グループ発表＞

グループごとに活動と空間のレイアウト（どんなことをやったらいいか、どんなことをしてみたいか、どんな空間が良いか）について発表した。発表後のまとめとして、ファシリテーターのわたなべ氏及び設計者よりコメントし、今回のワークショップで気づいた事や印象に残ったことを共有した。

- 多目的ホール（北側）…会議スペース、情報発信コーナー、常設ギャラリー　など
- 多目的ホール（南側）…子育て交流の場、イベントスペース、アンテナショップ　など
- （仮称）深谷コリドー（花の回廊）…ガーデニング会場、販売活動、演奏等のイベント、照明の工夫　など
- 市民広場…ガーデニング、マルシェ、お祭り　など

＜まとめ＞

グループごとに市民の交流の場となるような『活動のアイデア』と、活動がしやすくなるような『平面計画』が提案された。南側の多目的ホールは動的なイメージの空間、北側の多目的ホールは静的なイメージの空間としてレイアウトを考えている点が全グループに共通しており、特に南側の多目的ホールは、外部の「（仮称）深谷コリドー（花の回廊）」や「市民広場」、「市街地」との関係を意識した空間とする提案が多かった。また、双方向での情報交流の場を望む声も多く見られた。

３　　総括

（１）　深谷市新庁舎建設における市民ワークショップで得られた成果

「２　活動報告」のとおり、本市においては新庁舎建設基本設計に向けて全３回の市民ワークショップを開催した。本市のワークショップの特色としては、テーマを「使い勝手がよく、市民にとって親しみやすい庁舎とは」と他事例と比較し、抽象的なものとしたことにある。

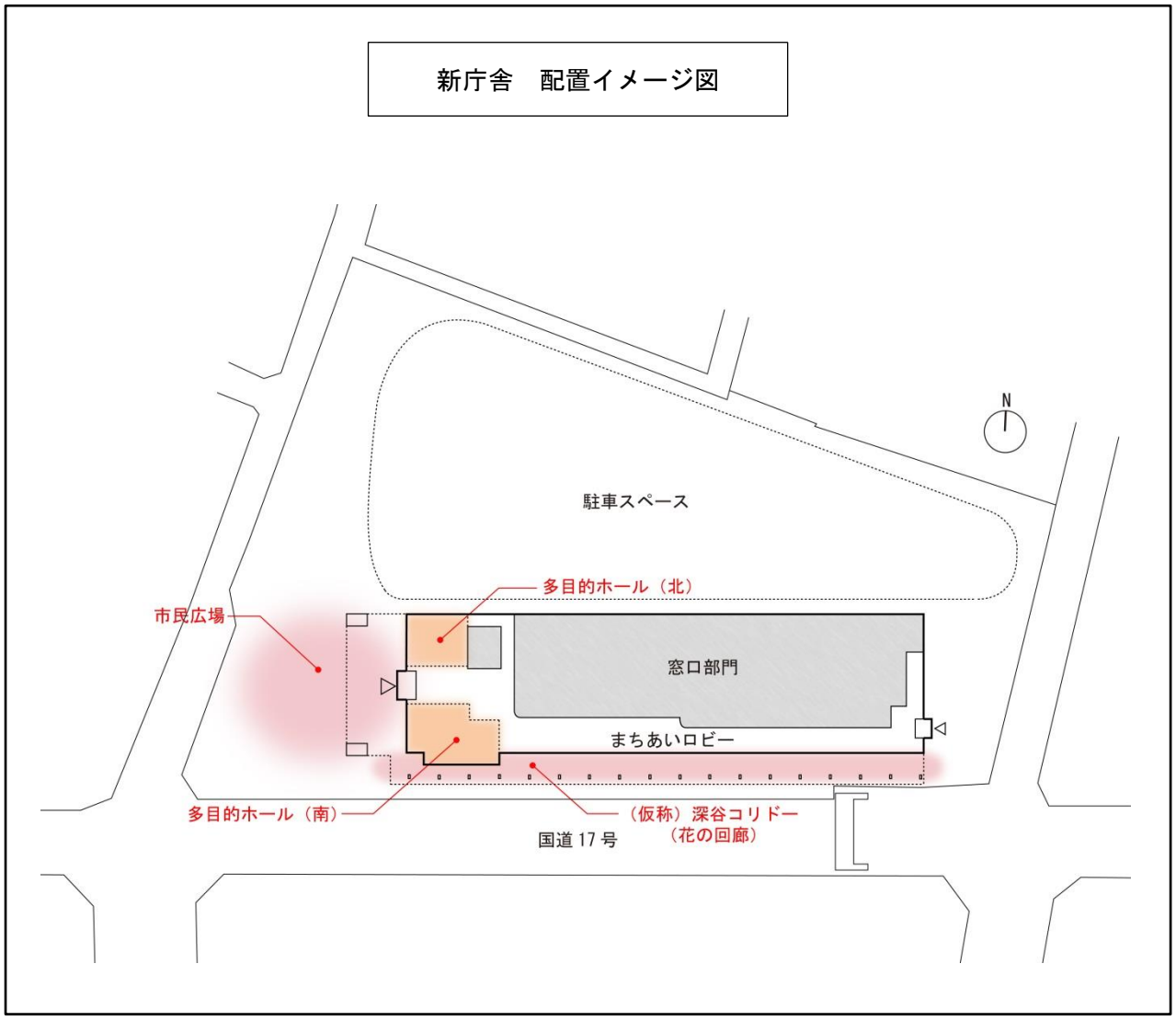
一般的な庁舎建設に関するワークショップでは、あらかじめ設計において市民利用諸室など空間の確保を示したうえで、そこに必要な活動、設備などを議論するところから始めることが多く見受けられた。こういった具体的な空間を示しワークショップを開催する手法も一つの方法と考えるが、ともすれば、要望として「〇〇があったら便利だ」という意見を伺う機会として、本来のワークショップという手法が導き出す、新たなアイデア、気づきといったものが生まれなくなる危険性をはらんでいる。もちろんこれはワークショップ参加者に問題があるわけではなく、具体的な空間を示して何に使いたいかといった、行政側のワークショップのテーマ設定に課題があるものと思われる。この結果として、一般的な市民ギャラリーやカフェ、レストランといった具体的なコンテンツを新庁舎内に確保することになったものの、実際には利用者が少ないといった事例も見受けられた。

したがって本市のワークショップでは、抽象的なテーマをもとにワークショップを開催し、全３回の中で、「使い勝手」と「親しみやすさ」をキーワードに、すぐにイメージできる具体的なコンテンツ（コンビニやカフェ）の抽出から始め、そもそもそれを必要とする背景について、一端は抽象的な意見を交換し合い、最後にはその抽象化した意見から、本質的に必要なものは果たして何であったのか、再度の具体化作業を行っていただいた。

この詳細については「２　活動報告」で触れたとおりだが、第１回の議論の中心にあった「コンビニ」については、第２回のワークショップでは、新庁舎にコンビニが必要なのではなく、実生活において求める便利さ、気軽に立ち寄れる具体例がコンビニであるということに気づいた点にある。テーマに置き換えれば、「便利さ」は「使い勝手」、「気軽さ」は「親しみやすさ」となる。ワークショップでは、確かにコンビニがあれば便利だが、そのことは必ずしも新庁舎にあるべき機能に繋がるものでは無いという、気づきが得られたことは、第３回での具体的な活動やそのための空間のイメージを考えるうえでの橋渡しとなったと思われる。

この成果をもとに、第３回ワークショップにおいて、設計プラン概要において示した「多目的ホール」「市民広場」「（仮称）深谷コリドー（花の回廊）」場所（空間を）を例に挙げ、再度テーマにある「使い勝手が良く、親しみやすい庁舎について」に関し設計に反映させるのに必要な要素（空間イメージや活動に必要な設備等）を抽出するための、具体的な活動、そのための空間（場所）のデザインを提案するに至ったわけである。

以下では本ワークショップの成果として、主に市民活動の場となる「多目的ホール」「市民広場」「（仮称）深谷コリドー（花の回廊）」での活動内容と、新庁舎建設基本設計に検討・反映させるための空間イメージ（必要な要素）について報告する。



（２）　場所ごとに提案された具体的な活動と空間イメージ（必要な要素）

	多目的ホール（北）
活動内容	・会議、打ち合わせができる ・市民や市の活動を紹介する情報コーナー ・常設のギャラリー ・小さなイベントができる
空間イメージ（必要な要素）	・可動間仕切り等で小さく仕切る事ができるスペース ・打ち合わせができるような机や椅子などがあるスペース ・コンセントなどを設置し、電気設備が使用できるスペース ・情報のやり取りがしやすい設備（インターネット、掲示板など） ・会議や展示にも対応できる照明 ・ピクチャーレール

【　多目的ホール（北）の使い方のイメージ　】

●地域の仲間との打ち合わせ

●インターネットで調べもの

●市民による作品展

●自由学習コーナー

	多目的ホール（南）
活動内容	・人が集まり、話ができたり、交流することができる。 ・自由に使える。グループでも、一人でも居心地が良い ・大きなイベントを開催できる（子どもの発表会、フラダンス、公演、コンテスト、展示会） ・体験や学習ができる（ガーデニング講座） ・地域の情報や深谷の歴史などを情報発信できる（花火やお祭り等をパブリックビューイングする） ・コーヒーが飲めたり、休憩時間にリフレッシュできる ・アンテナショップ ・市の活動や、それ以外のことも情報のやりとりができる
空間イメージ（必要な要素）	・（仮称）深谷コリドーや市民広場と関連して使えるスペース（外部の様子がわかるサッシ） ・いろいろな活動に対応できる広く自由なスペース（仕切りを設けるのではなく、床の色を変えることで空間を分ける） ・コンセントなどを設置し、電気設備が使用できるスペース（スクリーンなど） ・情報のやり取りがしやすいスペース （インターネットや掲示板など） ・会議や展示にも対応できる照明設備 ・ピクチャーレール ・グループでも一人でも居心地の良い椅子（自由な配置のソファ、カウンタースペース）

【　多目的ホール（南）の使い方のイメージ　】

●人が集まり、
おしゃべりができる

●リフレッシュスペース

●グループでも、一人でも
居心地が良い場所

●地域の人と交流、体験学習

●趣味の発表会

●アンテナショップ

	市民広場
活動内容	・ガーデニングができる（ガーデニング講座、コンテナガーデン） ・イベントを開催できる（マルシェ、軽トラ市、展覧会） ・音の出るイベントができる（山車の巡行、太鼓の演奏） ・他の公共施設や商店街と関連して使える ・子どもの遊び場
空間イメージ（必要な要素）	・多目的ホールや（仮称）深谷コリドー（花の回廊）と関連して使えるスペース ・車の出入りができる広いスペース ・中心市街地や近くの公共施設など外部と出入りがしやすい動線 ・ガーデニングなどの体験に対応できるスペース（泥汚れに強い床材、水栓の整備、外部用の机や椅子） ・噴水など子どもの遊べる空間

【　市民広場の使い方のイメージ　】

●音の出るイベント

●山車や神輿の巡行

●子どもの遊び場

●マルシェ

●軽トラ市

●ガーデニング体験

	（仮称）深谷コリドー（花の回廊）
活動内容	・ガーデニングができる（ボランティア活動、ガーデニング体験、オープンガーデン） ・建物の中にいる人や歩く人が見てほっとできる（木や花壇、季節感のある空間） ・イベントを開催できる（演奏会、写真展、販売イベント） ・他の公共施設や商店街と関連して使える
空間イメージ（必要な要素）	・多目的ホールや市民広場と関連して使えるスペース（庁舎内部から視線が抜ける空間 ・通行するだけでなく、イベント活用もできるゆとりあるスペース（机や椅子を配置したり、車の通行も可能なスペース） ・歩きやすい床材 ・手入れがしやすい花壇 ・気持ちよく散歩できる変化のある歩道（真っ直ぐな道ではない、樹木もあると良い） ・中心市街地や近くの公共施設など外部と出入りがしやすい動線 ・夜間でも安全で印象的な空間（ＬＥＤ照明）

【　（仮称）深谷コリドー（花の回廊）の使い方のイメージ　】

●ボランティア活動

●ガーデニング体験

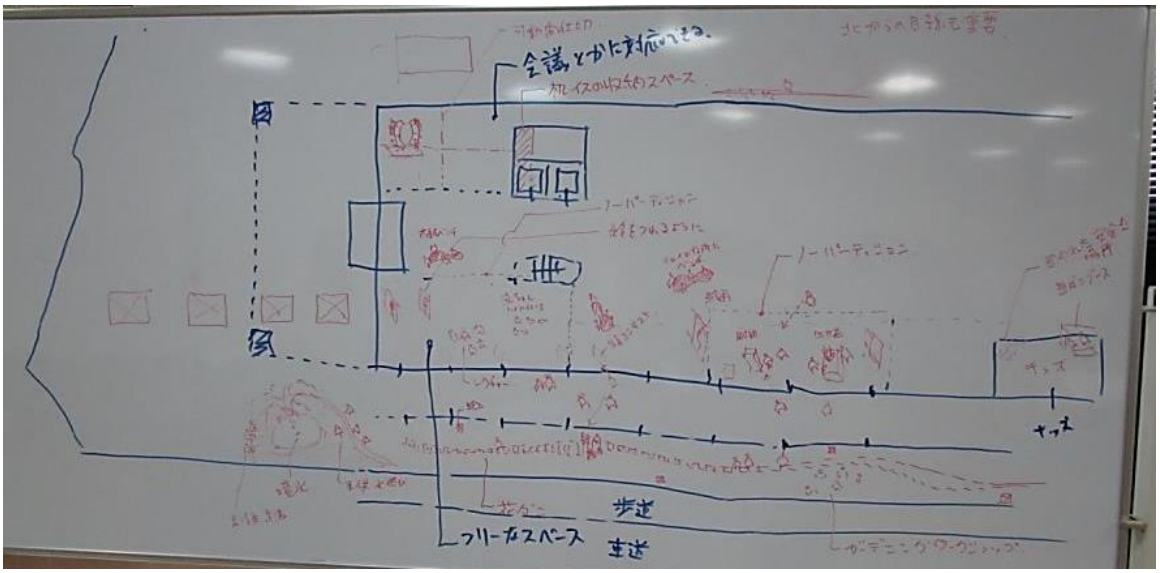
●オープンガーデン

●演奏イベント

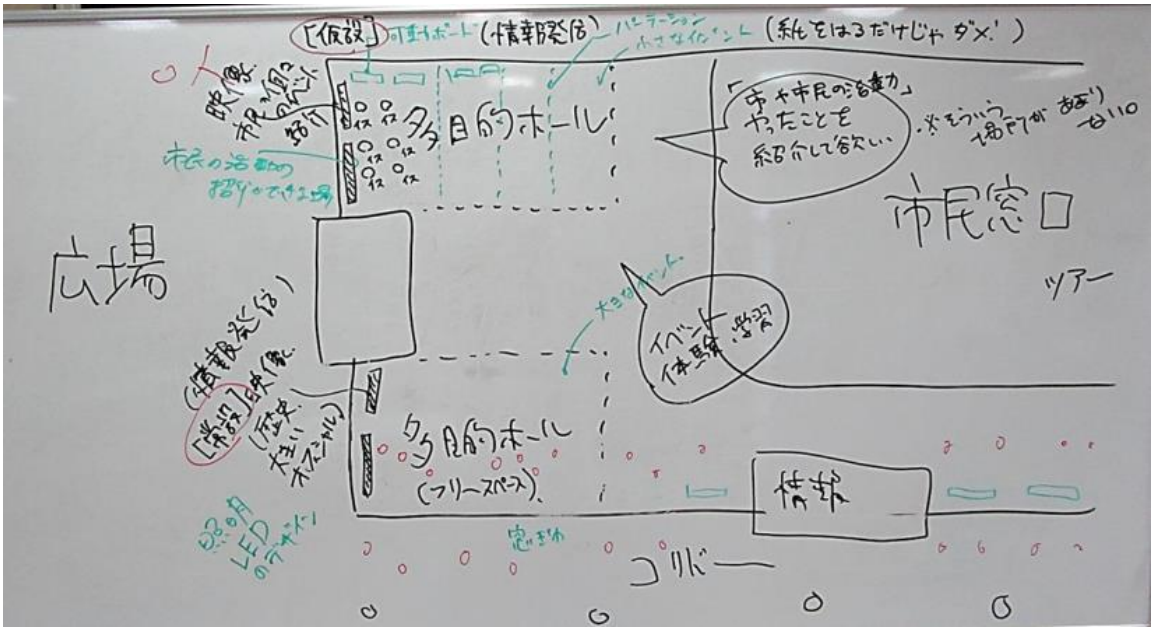
●販売イベント

●夜間も安全で
印象的な空間

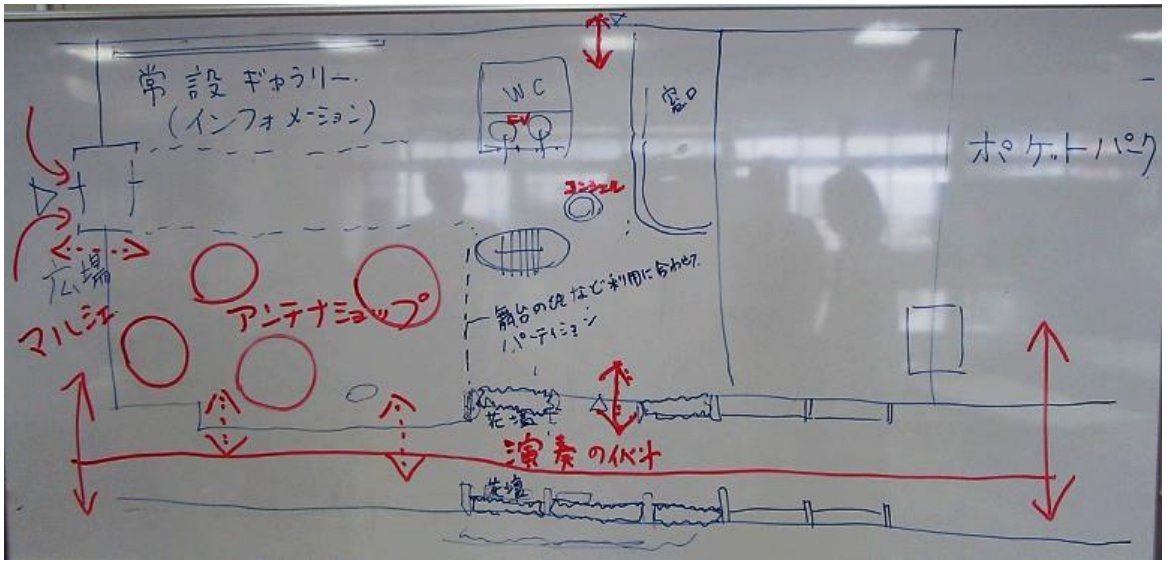
【　提案された空間のデザイン　】



○市民広場と（仮称）深谷コリドー（花の回廊）でガーデニングを行う提案。
多目的ホールでは子育て支援センター、市民広場には子どもが遊べる水遊び場を設置することで、子育て世代を中心に、幅広い世代の集いの場が提案された。
また、パーテーションで空間を仕切らないことで、必要に応じて自由に活動ができるフレキシブルな空間が提案された。



○多目的ホールを、市民活動や市の活動を情報発信できるスペースとするデザイン。
広い空間を活用し、体験や学習できるイベントを開催するスペースとする。
楽しみにつながる活動の拠点となるような空間にする提案がされた。
コリドーでは、ＬＥＤ照明によるシンボリックな演出も提案された。



○マルシェや地元のアンテナショップ、音の出るイベントなど、市民広場と多目的ホール、（仮称）深谷コリドー（花の回廊）を一体的に使うデザイン。
近くの施設や商店街との繋がりを意識し、まち全体が活性化する活動が提案された。
また、駐車場を利用し、外からのお客さんを呼び、深谷市をＰＲできるようなイベントが提案された。

（３）　結びに　「市民×行政＝新庁舎」

３回のワークショップを開催し、参加者の方から多くの具体的な意見をいただいたが、その共通の思いは「市役所は、単に用事を済ませるだけでなく、まちづくりの拠点、シンボルであって欲しい」という思いであった。この「まちづくりの拠点・シンボル」という表現自体は、一般的な新庁舎建設における当然の理念と思われるが、ここでいうシンボルは特に市庁舎を都市空間の物理的建築物として捉えた意匠や景観的なシンボル性を指す傾向にある。

一方で、一般市民から見た場合、庁舎は市職員のオフィスであって、市民にとっては単に生活に必要な用事を済ませるだけの場所にすぎないといった意見も当然ながらあると思われる。

しかしながら、今回のワークショップを通じファシリテーターを務めていただいた、わたなべなおこ氏へのインタビューでは、ワークショップ参加者は、「新庁舎建設を自分事のこととして捉えていただき議論していた」という意見にあるように、「まちづくりの拠点・シンボル」という言葉が、行政発信ではなく、市民ワークショップという機会を通じて出た意見であることは、非常に興味深いものであり、今後の新庁舎設計において、より重く受け止めるべきものと考える。

これも従来から述べられているが、これからのまちづくりは行政主導でなく市民が一体となってそれぞれの責務を全うしていく協働社会の実現をめざすべきものであるが、これが目に見えた成果として表れていることは事例としても多くは存在しないと思われる。

庁舎建設は５０年に一度あるかないかの事業である。本市においては今回の市民ワークショップの意見をもとに、新庁舎を造り上げる過程において、市民と一緒に考えていく場を継続的に実践して行くことが必要であると考える。そういった過程を通じ、新庁舎を建設することで、意匠や景観的な建築物としてのシンボル性と、そこで市民が活動する空間までも担保し、設計に落とし込むことができれば、外観だけでなく中身も伴った新庁舎として、深谷市のまちづくりの拠点、シンボルとなりえるものと考える。そしてその成果は庁舎という目に見えた形で、５０年、１００年先の深谷市の発展に繋がっていくものと考える。

深谷市新庁舎建設基本設計策定に係る
市民ワークショップ報告書

平成 28 年 11 月
深谷市

深谷市総務部新庁舎建設推進室
〒366-8501　深谷市仲町 11-1
☏　048-571-1211